



—北アフリカ地域ニュース—

エジプト：ムバーラク大統領が次期大統領選挙への不出馬を表明 研究員 江崎 智絵

2月1日、ムバーラク大統領の退任を求めるデモは、報道によれば百万人規模に達した模様。同日、ムバーラク大統領は、次期大統領選挙への不出馬を正式に表明した。英発行ハヤート紙等は、「ムバーラク後の段階に向けた調整が始まった」と報じた。

1. ムバーラク大統領の演説と同演説への反応

2月1日の夜、ムバーラク大統領は、演説を行い、本年9月に実施予定の大統領選挙に出馬しない意向を表明した。また、同大統領は、大統領選挙への出馬条件を規定したエジプト憲法第76及び77条の改正に向け準備を進めることを約束した。同日、ムバーラク大統領は、1986年から1991年にかけて駐エジプト米国大使を務めたFrank G. Wisnerと会談し、オバマ大統領からのメッセージを受け取ると共に、次期大統領選挙に出馬しないよう要請されていた。

同演説の終了後、オバマ米大統領は、ムバーラク大統領と30分間の電話会談を行った。オバマ大統領は、ホワイトハウスでの自身の演説の中で、ムバーラク大統領も変化の必要性を認識していると述べ、政権移行が平和裡に、そして今すぐに行われなければならないとの立場を明示した。

カイロ中心部のタハリール広場に集結していたデモ隊も、ムバーラク大統領の演説には満足しなかったようだ。彼らは、引き続きスムーズな政権移行とムバーラク大統領の退任を求めており、デモ隊が解散される気配はみえない。

2. エジプト国内の政治勢力の動向

2月2日付英発行ハヤート紙は、ムスリム同胞団を含む野党側が体制との交渉役として適任とみなし始めたエルバラダイ前IAEA事務局長が2つの提案を有していると報じた。第1に、軍人1名と民間人2名からなる暫定最高評議会を設立するというものである。第2に、スレイマーン副大統領が暫定大統領に就任し、上下両院を解散すると共に、新憲法を準備し、その後議会及び大統領選挙を実施するというものである。同前事務局長の立場は、後者に傾いている模様。

また、2月1日、ムスリム同胞団は声明を出し、正統性を失った大統領、議会、政党及び政府からなる体制側との協議の実施を拒否するとして、1月31日のスレイマーン副大統領による政治協議の実施提案を受け入れない姿勢を示した。